国際ロータリー 第2620地区 2022-2023年度ガバナー
淺原 諒蔵

2023/04 Governor's Monthly Letter

例年よりも桜の開花が早いようで、本紙がお手許に届く頃には桜も早、散り始めているかもしれません。

さてこの時期、ＩＭや周年行事といったものが頻繁に開催されております。静岡第５グループ、山梨第２グループ、静岡第３グループのＩＭ、袋井ＲＣ40周年祝賀会などの行事が目白押しです。いずれのＩＭも久しぶりの開催とあって入念な準備の下、内容も工夫を凝らした素晴らしいものだけに心に深く感銘を受けました。ＩＭを主宰されたガバナー補佐とホストを務められたクラブに感謝と御礼を申し上げます。この後も静岡第４、山梨第１・第３グループのＩＭの開催が予定されており、楽しみが続きます。

ＩＭや周年行事への参加の合間を縫って、３月18、19日の２日間にわたりＲＩ第3350地区（タイ、ベトナム、カンボジア、ミャンマー）の地区大会に参加してまいりました。この地区の飯田光孝ガバナー（バンコク･スリウォンＲＣ）は、海外で初めて就任された日本人のガバナーで、ＲＩ第3350地区と当地区は昨年の夏に友好協定を締結した関係にあります。今後、両地区間で強固なネットワークを築き、国際ロータリーの友情の下、様々なロータリー事業の組み立てを、両地区の間で推し進めていく予定です。

今回、友好協定を結んだＲＩ第3350地区の地区大会には私の他、安間みち子ＰＤＧ、中村皇積ＤＧＥ等も加わった総勢10名で開催地のタイ王国のパタヤまで出向きました。パタヤの外気温は33度前後、一方室内は空調が効きすぎて肌寒いくらいでした。会場をあまりにも冷やし過ぎたのでしょうか、電気の使い過ぎで電力が落ちて一瞬、会場内が暗闇となるハプニングもありました。地区大会テーマは日本人ガバナーの主催らしく「Cherry　Blossom」で、参加者全員が桜をデザインしたシャツを着こむといった具合に日本情緒たっぷりでした。またＲＩ第3350地区は、当地区が足元にも及ばない程、グローバル補助金事業が活発で、50を超える数の様々な事業に取り組んでおられます。なお、青少年交換事業も活発に行われており、40名の青少年交換学生を受け入れ、同じく40名の青少年を送り出しておられました。当地区は、次年度やっと「3名募集しよう」というレベルですから、雲泥の差があると言っても良いかもしれません。また会員も急拡大しており、タイだけでなくベトナムやカンボジア、ミャンマーといった地域でもロータリーが確実に広がりつつあるようです。これらＡＳＥＡＮ諸国は急成長を遂げているだけに、その勢いがロータリー活動にも及んでいるように思えます。

「閑話休題」

昨年に引き続き「女性会員・女性事務局員未来 design セミナー」が２月24日、会員増強・維持委員会の主催で開催されました。会場には大勢の女性会員が集い、その華やかなこと。世間一般、開催される催しの多くは男性諸氏が多く集まるため、会場は紺色やダークグレーといった色彩に染まり勝ちですが、この日だけは違いました。会場一面が多様な色彩に染まり、まるでお花畑のようでした。片隅に陣取った役員の男性諸氏が場違いに感じる位、この日の会場の雰囲気は普段と異なっていました。

講師に元タカラジェンヌの永楠あゆ美さん（宝塚歌劇団第92期生 宙組 男役 月映樹茉）をお迎えし「自分らしさを育てるコミュニティ」と題したご講演をいただき、最後に元タカラジェンヌの素晴らしい歌声まで披露してくれました。その後、テーブル毎のグループディスカッションとなりましたが、その騒がしいこと。決められた時間内ではとても終わりそうもない雰囲気でした。ロータリーも多様性の時代です。女性会員がもっと増えれば、クラブはより活性化すること間違いなしと確信した次第です。
また、３月12日には、次年度のクラブ会長向けのセミナー・ＰＥＴＳが開催され、いよいよ中村年度の幕が開きました。４月には地区研修・協議会が予定されており、次年度へ向けての準備も急ピッチで進んでいるようです。

中村皇積ガバナーエレクトは、若さと実行力を兼ね備えた期待のホープであるだけに、今後のご活躍が楽しみです。

国際ロータリー2620地区　2022-2023年度ガバナー事務所
〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町2-12 安藤ハザマビル5階　TEL：054-251-2620　FAX：054-251-2621

米山奨学生期間終了式

2023 年 3 月 5 日（日）　グランディエール ブケトーカイ（静岡市）

米山奨学生 3月度の期間終了式が開催され、松村アドバイザー、中村ガバナーエレクト、小泉ガバナーノミニーをはじめ、カウンセラー、米山学友会員、現役奨学生らが集い、終了する 15 名の奨学生の旅立ちを激励と共に祝福いたしました。
冒頭、小泉ノミニーが「二度と戦争をおこしてはならない」との戦後のロータリアンの決意と米山奨学制度について、熱く語られました。続く松村アドバイザーからは、人同士が仲良くても国単位の関係は簡単ではない、国が道徳を踏まえ国益を超えた活動ができるよう期待したいとメッセージがありました。

甲府 RC の田中カウンセラーからは、「父親になれた喜びと共に楽しく期間を過ごすことができた」との言葉が伝えられ、その奨学生からは「日本と祖国の架け橋になりたい自分の進路について、父親のように親身に相談に乗って頂いた」と、親子（？）相愛ぶりが感動を呼びました。また他の奨学生たちからも、「民間の助け合いによって真の国際平和を築きたい」「人権、平等、奉仕の精神を学べた」等、各々クラブやカウンセラーへの感謝を述べ、前途洋々な未来像を感じさせました。中には、「私は将来ロータリアンになる」と、早くも入会宣言した奨学生も現れるなど、笑いあり涙ありのほのぼの終了式となりました。
皆さんの未来に栄光あれ！

米山記念奨学委員会　伊東西 RC　稲葉雅之

奨学生のスピーチ

皆さん、こんにちは。藤枝ロータリークラブに所属している李旻玉です。この度、奨学生代表としてご挨拶させていただくことができ、大変光栄に存じます。一年間の奨学生としての経験を通じて、私は多くのことを学びました。この経験は私の人生にとってとても有意義であり、今後のキャリアや個人的な成長に役立つことを信じています。

ロータリー奨学金を受け取る前は、コロナの影響で、大学の授業料や生活費について多くを心配していました。しかし、奨学金を受け取ることで、その負担が軽減され、大学での学習に集中できるようになりました。おかげさまで、今年の 2 月 20 日に名古屋大学から合格通知が届き、4 月から名古屋大学の博士課程に進学することになりました。また、奨学金を受け取ることで、私は自分自身に自信を持つことができました。学業や将来のキャリアに対する自信が増し、自分の能力についてより良い見通しを得ることができました。

奨学金を受け取ったこの一年間、私は多くの人々と出会うことができました。多くの人々と出会うことで、異なる背景や文化について学ぶことができ、自分自身の視野を広げることができました。学友会の様々な活動に参加する際、他大学の奨学生と出会い、友達を作り、様々な経験や見解を聞くことができました。昨年 10 月、三保の松原の海岸清掃活動に参加した際、学友会のみんなが誕生日プレゼントを用意してくださり、とても感動しました。また、去年の地区大会に参加したとき、さまざまな分野の人々と出会い、彼らの社会貢献への熱意から、ロータリーの精神をより深く理解することができました。

奨学生として藤枝ロータリークラブに入ったこの一年は、私が日本で過ごした最も幸せな一年でした。例会に参加するとき、クラブの皆さんと出会い、彼らが私たちを支援してくださる理由や、私たちが将来どのように世界に貢献できるかについて多くを学びました。また、クラブの皆さん、特に私のカウンセラーの土屋富士子さんは、例会が終わるたびに彼女の家に遊びに行こうと誘ってくれたり、いろいろなおやつを用意してくれたり、お正月には韓国旅行に連れて行ってくれたりと、多くの場面でお世話になりました。心から感謝いたします。

奨学金を受け取ったことで、私は社会に貢献することの重要性を再認識しました。これから進学し、仕事をするときには、ロータリーの精神を心に刻みます。修了式は私にとって新たなスタートです。今後も学友として様々な活動に積極的に参加していきますので、これからもよろしくお願いいたします。

皆さん、こんにちは。甲府ロータリークラブ米山記念奨学生の辛飛揚と申します。
本日、ここに立って挨拶をさせていただき、ありがとうございます。

まずは、米山記念奨学委員会の皆様に感謝いたします。いつもお世話になっております。
最初奨学生になって、わからないことばかりでした。そのたびに委員会の皆さんに優しく教えてもらいました。特に、前委員長柳場さん、現在委員長渡辺さん、そして、清水さんにはいろいろなお手数をお掛けしました。

そして、私のカウンセラー田中さんにも感謝申し上げます。ここまでの 2 年間、田中さんの指導により、いろいろなことを学ぶことができました。例えば、毎月の奨学金をもらう時、一言の添削をしていただきます。そして、日本の社会人として、いろいろな注意事項を教えてもらいました。そのようなことは、学校では勉強できないと思います。そして、私は質問や困ることがある時、クラブの例会だけではなく、平日にも相談をしました。4 年生の時、就職活動があまりうまくできなかった時、よく相談して、私の考え方も変わりました。最後も田中さんのおかげで、無事に就職することができました。いつもやさしくて、日本の父親みたいな感じだと思います。本当にありがとうございました。

この 2 年間の奨学生生活で、本当にいろいろなことを経験することができました。私は結構緊張しやすいタイプです。しかし、クラブの 100 名くらいの社長さんの前に立ってスピーチをするということに徐々に慣れて、緊張の問題を少し解消できました。そして、クラブの「奉仕」活動に参加させていただき、自分の価値観も変わりました。自分だけではなく、他人も助けたい。そのようなことは、自分の一生を決める大切なものだと思います。これからの人生において、大切な宝物だと思っていますし、絶対に忘れません。

最後に、本日奨学生期間が終了する皆さん、おめでとうございます。これからは、また新しい人生となります。今までの奨学生の経験を活かすとともに忘れないようにしてください。

みなさん、こんにちは。奨学生のジェシャンシンです。いよいよ、米山奨学生終了式の日になりました。一番言いたいことは、終了したくありませんということです。世話クラブのみなさんと、今まで通りに、毎週会いたい。

離れたくない気持ちでいっぱいですが、日本にはこういう諺があります。会うは別れの始め。出会いがあれば、必ず別れがやってきます。別れがあるからこそ、出会う時間が大切な宝なのです。

米山奨学生になって、家族ようなロータリークラブのみなさんと親睦友好となり、学友会のみなさんと強い関わりを結び、また 2620 地区米山記念奨学会委員会の皆さんとも親密になりました。これらは米山奨学生にしかない、大切な宝です。この宝を大事に、していきたいです。

ロータリーで、人間として備えなければならない高潔な品格を多く学ぶことができました。これからの人生で、どういう人間になるのか。まず、人間は職業、お金、学歴でランクをつけるべきではありません。いい仕事についても、生活が裕福になっても、貧しい人を軽蔑してはいけません。そして、異文化、マイノリティ、世の中のあらゆることに対して、広い心で尊重すること。さらに、人間は自然環境から脱出しているわけではありません。私たちは地球という青い星に生活し、その星の一部に過ぎません。いくら科学技術が発展しても、いくら経済のためと言っても、この美しい地球を守らなければいけません。

言われてみれば、ごく普通なことです。しかし、一部の人は目の前の利益のために、人間にとって本当に大事なことを放棄してしまいます。これからの人生で、そういう人間にならないように常に努力していきます。何よりも奉仕の精神を心にかけること。中国は地球村という言葉があります。グローバル化に伴って、広い地球が小さな村になったという意味です。奉仕の精神が言葉や国境の壁を越え、世界中の隅から隅まで届くことを願い、また届けられるように、米山奨学生が細やかな力ではありますが尽力していきます。

米山梅吉はこういう言葉を残しました。「真の平和は決して外部からの圧迫で来るものではありません。長い間のいろいろな内部的な動きがあって、またそれらが合わさって、初めて良い結果を得ることができるものです。」私たち米山奨学生が母国との架け橋になり、民間の助け合いによって国際的な友好の関係を築いていきます。みんなの力で、世界平和の日が、いつか訪れると思っています。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

国際ロータリー2620地区　2022-2023年度ガバナー事務所
〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町2-12 安藤ハザマビル5階　TEL：054-251-2620　FAX：054-251-2621

国際ロータリー第 2620 地山梨第 2 グループ IM

山梨第 2 グループＩＭは 3 月 5 日 (日)、甲府シティＲＣをホストクラブとして甲府市総合市民会館芸術ホールで開かれ、約 300 名 (一般参加含む) の参加者が集いました。

第 1 部のセレモニーでは、幡野美好ガバナー補佐による開会点鐘に続き、国歌・ロータリーソング斉唱、物故会員への黙とう、太田丈三ＩＭ実行委員長の開会の挨拶から幡野ガバナー補佐の挨拶へと進みました。来賓・役員・参加クラブ紹介では多くのロータリアンのお元気そうなお姿を拝見することができました。その後、ホストクラブの窪田浩之会長による歓迎の言葉に続き、来賓として淺原諒蔵ガバナーが祝辞を述べられました。結びに、溝口秀男次期ガバナー補佐が紹介され、第 1 部は閉会しました。

第 2 部からは一般参加者にもご参加いただき、講演会とパネルディスカッションが開かれました。気象予報士で女優の半井小絵さん、元長野県職員の古越武彦さんから気象と災害についての講演をいただいた後、山梨大学准教授の秦康範様をコーディネーターに迎え、パネリストに半井さん、古越さんに、山梨災害ボランティア連絡会議副会長の小見山義廣さんを加えた討論会が始まりました。タイトルは「どうする、甲府盆地が洪水だ !!」。半井さんからは気象の変化と予測とそれに対する対応、古越さんからは災害予測と実際に被害が出た際の行政との連携、小見山さんからは自身の地域におけるボランティア活動の実情と問題点が中心にディスカッションが行われ、現在取られている災害対応策と不足している対応が炙りだされ、甲府盆地が洪水にならないよう進めていくため、いくつかの対気象変動課題が指摘されました。

今回ＩＭは、共催として山梨災害ボランティア連絡会議、後援として甲府市、山梨県ボランティア協会にもご参加いただいており、行政との一体感を感じながら、会場を後にいたしました。

国際ロータリー第 2620 地区静岡第 3 グループ IM

静岡第 3 グループＩＭは駿河ＲＣをホストに 3 月 26 日 (日)、ホテルアソシア静岡で約 250 名のロータリーメンバーの参加の下、華やかに開催されました。本会議では、駿河ＲＣの坂本泰俊ＩＭ実行委員長の開会の言葉、淺原一治会長の歓迎の言葉、杉浦英昭静岡第 3 グループガバナー補佐の挨拶に続き、淺原諒蔵ガバナー、中村皇積ガバナーエレクト、田辺信弘静岡市長が来賓として祝辞を述べました。続いて、静岡日本平ＲＣの阿部裕之次期ガバナー補佐の挨拶の後、静岡県立大に通う米山記念奨学生の李江華さん（世話クラブ＝駿河ＲＣ）による活動報告が行われました。

基調講演では 2009-2011 年度ＲＩ研修リーダーでＲＩ第 2770 地区の中村靖治パストガバナーが「変わりゆくロータリー　変わらないロータリー」と題した講演を行い、大変熱意のこもったお話をしていただきました。

その後の懇親会では、楽しいアトラクションとともに多くのロータリアンが更なる友情を深め、最後は全員で「手に手つないで」を歌い、大変盛会のうちに閉会を迎えました。

静岡北ローターアクトクラブ ガバナー訪問

国際ロータリー 2620 地区会員数　※ 2023 年　2 月現在

	期首会員数	前月末会員数	当月末会員数	当月増	当月減	通算増	通算減	女性会員数
74 クラブ	2750	2881	2882	8	7	224	92	235

Rotary
国際ロータリー2620地区　2022-2023年度ガバナー事務所
〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町2-12 安藤ハザマビル5階　TEL：054-251-2620　FAX：054-251-2621